

# 構成的エンカウンター・グループ 研修会

鳥取大学大学院医学系研究科  
金子 周平

1

## 構成的エンカウンター・グループとは

- 1) エクササイズを通して、自己理解、他者理解、自己と他者の深く親密な関係を経験する。  
(浅く誠実な関係を経験する)
- 2) エクササイズはあくまでも体験のためのツールである。  
エクササイズから何を経験し、メンバーと共有するかは、その時、そのメンバー、そのファシリテーターによって異なる。
- 3) 準備されたエクササイズでも「柔軟性」、「自発性」、「今ここでの体験」が重視される。

2

## エンカウンター・グループの歴史背景

### 1) 宗教的・思想的背景

プロテスタント信仰復興運動 (18世紀前半～)

- ▶ 早くから開発が進んだアメリカ東部 (フィラデルフィア、ボストン) の裕福で俗物的な商人たちが教会の主導権を握っていることへの反発
- ▶ 西部 (フロンティア) を目指す貧しいヨーロッパ人たちと宣教師たちは「信仰のよみがえり (リバイバル)、生き生きとした魂」を目指した。

### 【アメリカ型の信仰】

聖職者の軽視 / 典礼に拘らない / 教区の境界に拘らない / 伝道に対する熱意 / 個人個人の経験を重視

3

## エンカウンター・グループの歴史背景

### 2) 実存主義

普遍性や必然性の中で本質を論ずるより、今ここで現実に活動している「私 (現実存在)」の個別性や偶然性を重視する。

- ・ 主体性の重視
- ・ 制度に対する個人の重視 (サルトル)

### 3) 人間性回復運動

1960年代後半のアメリカでは、大学革命などの体制批判とともに、Intensive group experience (集中的グループ体験)、エンカウンター・グループ・ムーブメントと呼ばれる活動が急速に広まった。

4

## 構成的エンカウンター・グループの誕生の背景

◆様々なタイプのグループが行われてきたが、そのうちの一つを「構成的エンカウンター・グループ」として園分康孝先生が名付けたもの。ベーシック・エンカウンター・グループとは別の流れで発展してきたもの

◆エンカウンター・グループ・ムーブメント  
(広義のエンカウンター・グループ)

- ・ベーシック・エンカウンター・グループ
- ・Tグループ (1949年)
- ・感受性訓練 (sensitivity training group) グループ
- ・ゲシュタルト・グループ
- ・シナノングループ (Synanon group)

5

## 構成的エンカウンター・グループの特徴

・ファシリテーターのリーダーシップ

・構造化されたエクササイズ

- ▶ 予定のプログラムを実行するだけでなく、グループの特徴や流れによって柔軟に対応することが必要
- ▶ あたかもリーダーが集団をコントロールしているかのような錯覚に陥ることに気をつける必要がある

・多面的で幅広い (抽象的な) 狙い

【目的としてしばしば取り上げられるもの】

自己主張・自己表現・自己開示・自己受容・自己理解・他者理解・  
他者信頼・傾聴・自尊心の向上・深い人間関係の体験・  
対人関係スキル・リラクセーションなど

6

## 構成的エンカウンター・グループの 典型的なプログラム

1. ウォーミング・アップ
2. 自己主張
3. 自己表現
4. 傾聴訓練
5. 自己理解・他者理解
6. 自己開示
7. 信頼・協力

適宜追加されるもの ※テーマ・セッション (半構成的)  
※おまかせセッション

7